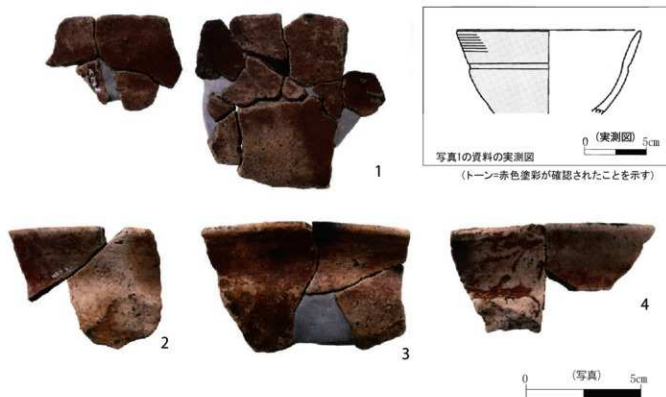


埋蔵文化財調査センター
ニュースレター

特集 赤く塗られた坏

北海道大学構内の遺跡からは、高さが15cmに満たない、²とと呼ばれる小形の土器が出土しています。続縄文後半期（北大式）の地点では出土点数が少ないのですが、擦文期になると多くの個体が出土するようになります。そうした坏のなかには、土器の外面に顔料による赤色塗彩が確認できる資料があります。発見された土器の状態ではだいたい色褪せてしまっていますが、製作された当時は、大変鮮やかではなかったかと考えられます。これらの赤色塗彩された坏は、日常的な食事の際に用いられるというよりは、儀礼的な行為のなかで使用されていた可能性があります。同時期の本州各地には、同様の赤色塗彩された土器がひろく分布しており、坏のなかには器形や塗彩の特徴の共通性からみて、東北地方で製作され持ち込まれたものもあるのではないかと考えられます。

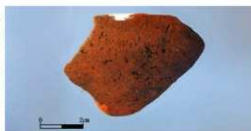
本特集では、この赤色塗彩された坏について紹介いたします。



▲ K39遺跡工学部共用実験研究棟地点から出土した赤彩土器

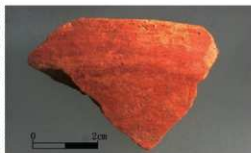
坏の口縁部破片資料。2～4は、それぞれ別の個体に属する。それぞれの外面に赤色塗彩の痕跡が認められる。退色や剥落により、塗彩は土器の一部で痕跡的に確認されるにとどまる。続縄文後半期の5～6世紀頃（北大式）に残されたものである。そもそも北海道内の続縄文後半期の遺跡において坏の出土数はきわめて少なく、そのなかでも赤色塗彩されているものはかなり珍しい。

赤塗土器の出土地点



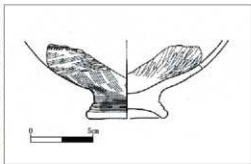
▲ K39遺跡ボプラ並木東地区地点から出土した
坏

口縁部破片資料。外面に赤色塗彩の痕跡を部分的にとどめている。口縁部はゆるやかに内湾し、底部は丸底であったとみられる。器形の特徴から、東北地方を中心にみられる土師器の南小泉式（古墳文化中期の5世紀頃のもの）に比定されている。



▲ K39遺跡事務局本館屋外排水設備地点から
出土した坏

口縁部破片資料。外面に赤色塗彩の痕跡が認められる。第1号竪穴住居（HP01）の覆土から出土した。弥文前期の8世紀前半頃のものと考えられる。東北地方の「関東系土師器」とされているもの可能性がある。



▲ K39遺跡第6次調査地点から出土した坏（『K39遺跡第6次調査』）
（トーン：顔料塗布範囲）

底部から体部にかけての破片資料。弥文中期末から後期初頭に位置づけられる。第46号竪穴住居（HP46）の覆土から出土した。底部外面に赤色塗彩が認められる。

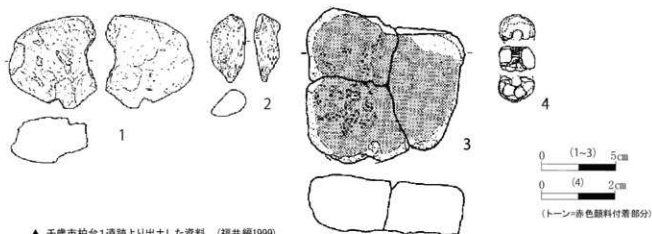
▼ 北海道大学構内から赤色塗彩された坏の出土地点

番号	地点名称	出土位置	個体数	時期	報告書
1	K39遺跡 ボプラ並木東地区地点	包含層	(1)	続縄文(北大)	『北大構内の遺跡5』
2	K39遺跡 工学部共用実験研究棟地点	包含層	(5)	続縄文(北大)	『K39遺跡工学部共用実験研究棟地点発掘調査報告書』
3	K39遺跡 事務局本館屋外排水設備地点	HP01	(1)	弥文前期	『北大構内の遺跡XXIII』
4	K39遺跡 国際イノベーション拠点施設地点	HP03	(1)	弥文前期	『北大構内の遺跡XXII』
5	K39遺跡 第6次調査地点	HP46	(1)	弥文中～後期	『K39遺跡第6次調査』 (札幌市文化財調査報告書 65)

■ 装飾のための顔料と玉

千歳市柏台1遺跡は、縄文文化以前に属する遺跡で、24,000～25,000年前頃に残されたとみられています。財団法人北海道埋蔵文化財センターによって実施された発掘調査によって、北海道でも初期のベンガラの顔料利用にかかわる資料が出土しています(福井淳一編1999『千歳市柏台1遺跡』)。本遺跡では、材質の違いにより黒色礫(マンガン)・赤色礫(針鉄鉱・赤磁鉄鉱)に分類された、顔料の原石(擦られた痕跡のないもの)(1)や原材(擦られた痕跡が観察されたもの)(2)とともに、顔料の付着が認められた台石(3)が出土しました。また、炉址周辺の半径約1.5mの範囲に顔料の沈着が確認された箇所もありました。これらのことから、遺跡内で黒色礫・赤色礫を擦って顔料の生産がおこなわれていたことが明らかとなつていきます。また、それとともに本遺跡では琥珀製の玉(4)が出土していることも注目されます。

土器も、恒久的な建造物も作られていなかったこの時代、顔料は、ヒトが身に着けていた衣服(例えば毛皮)あるいは身体そのものを彩ることに用いられていた可能性が高いと思われます。紐を通してネックレスのように身に付けていたと想定される玉とともに、身体装飾をおこなうところから顔料の利用が始まったといえるかもしれません。



▲ 千歳市柏台1遺跡より出土した資料 (福井編1999)

■ 『考古学からみた北大キャンパスの5,000年』

総合博物館との共催で開催された「K39:考古学からみた北大キャンパスの5,000年」(令和元年7月19日～9月29日開催)にあわせ、標記の図書が中西出版から刊行されました(本体価格1,200円)。北海道大学構内の遺跡や出土資料の情報が網羅されています。一般書店で注文・購入できますので、是非ご覧下さい。



表紙



裏表紙

■ 第12回調査成果報告会延期のお知らせ

すでに当センターのホームページではお知らせしましたように、令和2年3月8日に予定しておりました第12回調査成果報告会(主催:北海道大学埋蔵文化財調査センター)に関しては、新型コロナウイルスの流行拡大を鑑み、開催が延期となっております。新しい開催日時については未定です。

楽しみにして頂いていた方には大変申し訳ありません。主催者としても残念ですが、何卒諸事情お酌み取り頂き、ご理解いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

編集後記

寺社の建物や城、町屋、陶磁器などに見ることができるように、「赤」は人間にとって身近で、なおかつ他の色とは異なる感覚をもたらす特別な色だったのでしようか。色あせてしまっていますが、そうした意図は、遺跡から出土した土器からも伺うことができます(高倉)。

北海道大学埋蔵文化財調査室ニュースレター 第34号
令和2(2020)年2月28日発行

発行 : 北海道大学埋蔵文化財調査センター
〒060-0811 札幌市北区北11条西7丁目

電話 : 011-706-2671 FAX : 011-706-2094

e-mail : hokudaimaibun@gmail.com

URL : <http://maibun.facility.hokudai.ac.jp/>

印刷 : 柏楊印刷株式会社